

平成 31 年度（2019 年度） 県立下館第一高等学校自己評価表（全日制）

No. 1

目指す学校像	○規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養に努め、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性の育成を図る学校 ○一人ひとりの生徒の実態を踏まえた、柔軟かつ多様な教科指導と適切な進路指導により、確かな学力の定着と生徒の自己実現を図る学校 ○自主自立の精神を身につけ、自ら学ぶ意欲と力を育てる学校 ○確かな知識を身につけ、国際社会や地域の発展に貢献できる人材の育成を図る学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>平成 28 年度からは、新学習指導要領・大学入試改革に対応して、主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、研修会の実施、外部研修会への派遣、相互授業参観等により、授業改善に着手している。29 年度は電子黒板を第 2 学年普通教室、30 年度は第 3 学年普通教室に導入し、ICT 機器を活用した授業を展開している。その結果、授業中積極的に発言・発表する生徒が増加した。</p> <p>27 年度より重点校として指定された「一人一人が輝く活力ある学校づくり」事業では、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げた「紫西グローバルチャレンジ」事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修を実施した結果、英会話に積極的な生徒が増加し、GTEC のスコアも向上している。</p> <p>また、「わかる授業」を展開し、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって、進路指導における国公立大学への合格者数は 95 名でほぼ目標を達成できた。</p> <p>今年度は、再度重点校の指定を受けた「一人一人が輝く活力ある学校づくり」事業を「紫西グローバルチャレンジⅡ」として発展させ、アジア・オセアニア地域に軸を移した国際交流事業を軌道に乗せることが目標である。また、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善では、学力向上につなげる指導法の研究を引き続き進める必要がある。</p> <p>さらに今年度は、中高一貫教育校の開校に向けて、全職員の共通理解のもと、万全の準備を進めていきたい。</p>	<p>確かな学力の定着と進路指導の充実</p>	<p>①グローバル人材の育成を目指し、30 年度より新たに始まった「紫西グローバルチャレンジⅡ事業」を推進する。台湾への修学旅行、台湾・オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会、中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大学合格 100 名以上、難関国公立大学合格 20 名以上、難関私大合格 15 名以上を目指す。</p>	
	<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数を前年比で減少させる。</p> <p>⑧基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者 140 名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者 0 を目指す。</p> <p>⑩場を清め、心を清める活動を推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。</p>	
	<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>⑪特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、より良い人間関係を構築する。</p> <p>⑫部活動は、学業との両立を図り、密度の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。（1 年生の部活動加入率 90% 以上を目指す。）</p> <p>⑬学校行事の改善充実を図り、新たな伝統の継承に努める。</p>	
	<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>⑮学校説明会の充実に努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。</p> <p>⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。</p> <p>⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年 PTA・PTA 支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。</p>	

	いじめの未然防止と早期発見, 早期解消の確立	⑱ 道徳教育や教育相談等を充実させ, いじめの未然防止と早期発見, 早期解消に努める。	
	中高一貫教育校開校に向けての準備	⑲ 来年度の中高一貫教育校開校にむけて, 全職員の共通理解を含め万全の準備を進める	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	多様な研修の機会を持つ。	教員相互の授業参観を実施し、授業の改善、向上を目指す。 ②		
		各種の研修会に積極的に参加し、それを他の教員に伝達することによって、全体の指導力の向上に努める。特に新教育課程について調査、研究を深める。また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた教授・学習法が学力向上につながるための校内研修を企画する。 ②		
	生徒の学習意欲を高め、自学自習を促す。	生徒の実態に即した学習指導方法の工夫改善を行う。 考査や調査、提出物の点検、面談等を通して生徒の学習状況の実態把握に努めながら、興味や関心を高める指導を工夫する。 ②③ 生徒の言語活動の充実を図りながら、考える機会を多く持たせることによって思考力や判断力、表現力を向上させる。 ①②③		
国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。課題に自主的に取り組ませる。 ③④		
		定期テストや模擬試験の事後処理として、出来なかったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせる。 ③④		
	進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。 ②		
		年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。 ③④		
		読書環境を整える。朝のH・R前の読書時間を学年全体の指導として確保したり、教材に合わせた図書紹介を行ったりするよう努める。 ③⑥		
		公開授業、職員研修会、予備校等での授業研修を通じて、教員側も授業内容や指導方法について研鑽を積み、授業改善に努める。 ②		
地歴・公民	わかりやすい授業、興味関心を喚起する授業を行うと共に新課程に対応した教科指導に努める。	新聞、映像、副教材等を有効に活用し、わかりやすさを心がける。また、生徒の進路希望及び新課程に対応した授業を実践する。 ②③		
		授業担当者がお互いに授業を見学し、研究協議などを行う。 ②		
		各種研究会に参加し、授業内容へのフィードバック・教科内における情報共有に努める。 ②		
	生徒の能動的な授業への参加を取り入れた学習法を工夫する。 ②③			
	一般教養としても役立つ内容を盛り込む。	時事的内容を盛り込み、学習内容を身近なものになるように努める。 ②③ 小論文や論述問題にも対応できるように努める。 ③④		
授業開始と終了の際のメリハリをつける。	生徒の授業準備などが速やかに行われるように指導する。 ⑧			
教科	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。 ③⑩		
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。 ③④		
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。 ③④		
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。 ③④		
	家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。 ④		
自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ③ 学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。 ②③			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	数学		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。②		
	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③		
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。②③		
			資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③		
		自然現象に関する問題提起をし、理学的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。②③		
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。①②		
	進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。③④			
	生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。②			
	保健体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。②④		
		授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	基礎力の身につけていない生徒に対し、個別指導等を実施する。③		
現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。		単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。①③			
基礎体力の向上を図る。		資料やICT機器を活用し、グループ学習など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。①②			
		生涯を通じた健康作りの基礎を身につけさせる。②			
種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい運動習慣の定着に努める。		保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。②			
スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。		年度始めに各学年とも補強運動や体づくり運動の時間を設ける。②⑤⑪			
		ゲームの進め方を工夫し生徒の運動量を確保する。②			
		各種目毎に経験者をグループ内に配置し、高い技術に触れる。②			
ゲームにおいて互いに審判を経験することで、ルールを覚え、各競技の楽しさを知る。②		バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。①			
音楽	学習する題材を精選してカリキュラムの組織化を行うことにより、生徒が音楽についての学びを深められるようにする。	対話的な関係にもとづく授業を行い、生徒が自分の「居場所」を実感できるようにする。①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬⑱			
		生徒の学びを授業の中心に据え、学習内容について実感を伴いながら且つ自己との関わりの中で理解できるようにしたり、変化する状況に応じて主体的に活用できる技能を習熟・熟達させることができるようにしたりすることにより、深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現させる。①②③④			
	授業を「生徒が見失われる場所」ではなく「生徒が見出される場所」として位置づけることにより、生徒が学習者としてお互いを尊重し合えるようにする。	テキストに根拠をおいた音楽的な感受に裏づけられた独創性を高く評価する。①②③④			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	音楽	仲間と共に協同的に文化や新しい価値を創造する過程を大切にし、生徒がその喜びを実感できるようにする。	「主題設定－探究活動－表現発表」という螺旋構造による授業形態を組織し、グループや学級単位での学習活動を多く展開する。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬⑱		
			年間を通した学習成果の発表の場として、校内第1学年合唱コンクールを開催する。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬⑭⑮⑯⑰⑱		
美術	授業研究に取り組み、指導法の工夫、改善を図る。	生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導に重点をおき、個性を尊重した指導を行う。 ③⑩		
			自画像表現を通して、観察力を養い、自分と向き合う時間を作る。 ③⑩		
			鑑賞教育の充実を図り、文化や歴史への興味を深めさせる。 ①		
			美術系大学の進路希望者に対して、デザインやデッサンなどの実技試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す。 ③		
英語	授業時間を大切にする。 指導力の向上を図る。	授業や家庭学習に主体的に取り組む意欲を育てる。	チャイム着席を徹底し、授業時間を確保する。 ③		
			授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。 ②		
	生徒がコミュニケーション能力を付けられるよう、指導法を研究・工夫する。 ②③				
	音読やリスニングを多く取り入れ、学習内容の定着を図る。 ①②				
	英語で発表する場を与え、主体的に授業に取り組めるようにする。 ①②				
	提出物等も成績に加味し、学習に取り組む態度を向上させる。 ②③				
家庭	学習意欲を高める授業を展開する。	思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。	ノート等を提出させ、生徒の家庭学習状況や理解度を把握する。 ③		
			小テスト等で学習の理解度を把握し、必要なら補習等を実施する。 ②④		
	実験・実習・体験学習、AI等多様な方法で授業を実施する。 ②③				
	異文化(台湾等)についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬				
情報	環境整備に努める。	思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を實踐し、生徒の「情報活用能力」、「情報を科学的に理解する力」、「情報社会に参画する態度」の三つをバランスよく養う。	家庭科に関する新聞切り抜き学習を年8回程度実施し、小論文やホームプロジェクト学習(課題解決型学習)に繋げる。 ⑱		
			実験・実習の充実を図る。 ⑥		
			マナーの基本を身につけさせる。 ⑨		
			学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩		
情報	情報社会の現状や仕組みについての知識を習得させ、確認する。 ②⑥	情報活用や情報モラルの知識・理解をレポート等により確認する。 ②⑥	実践は内容ごとにワークシートを作成し、終了後に提出させる。 ②⑥		
			実践において、様々な情報を分析・整理し、プレゼンテーションさせることで、思考力・判断力・表現力を育成する。 ②④		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。①②		
	授業時間の確保に努める。	計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。③ 授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。③		
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。⑪		
	定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、新統合システムへの移行を図り、円滑な運営に努める。各教科・学年からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。③ 観点別学習状況評価について理解を深め、評価方法を研究する。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。②③		
	開かれた学校づくりを目指し、教育活動の公表に努め、保護者及び地域とのコミュニケーションの向上を図る。	メール利用による学校情報発信のための環境整備とPRを図り、館一メールの登録・更新を推進する。直感的でわかりやすいHPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHPの更新を図っていく。⑭⑯		
		学校案内、シラバス、様々なパンフレットの作成を通し、目指す学校像等を地域や中学校に広く発信していく。⑭⑮		
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	進路指導部・学習指導部と連携して大学情報等のデータ更新などサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。④		
	ICT環境を整備し、校務の効率化を図る。	各教室のパソコンの定期的な点検整備を行い、ソフトウェア・ハードウェアの更新を進める。電子黒板等ICT機器の整備を図る。②		
		公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努める。		
外部記録媒体の管理をする。				
成績処理用にクローズされた校内LANを併せて整備し、管理する。 校内LANのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。				
生徒指導	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、また放送で呼びかけるとともに、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。⑤⑥		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
		保護者には入学予定者説明会・入学式後の保護者懇談会・三者面談時などを利用して礼儀やマナーの指導を呼びかける。生徒には毎月の生活目標を示したプリントを発行して励行を促す。被害調査を実施し、問題の予防や早期対応に努める。⑤⑥		
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。⑥⑦⑧		
	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。⑤⑥⑨		
		本校指定の白ポロシャツの定着及び指導を徹底し、生徒の夏のさわやかな服装を学校全体で実現する。⑨		
	基本的な生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者140名以上を目指す。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、生徒指導部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。⑧⑩		
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。⑤⑧		
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導、自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。⑥⑨		
		教室を離れる際は、貴重品袋の利用を呼びかける。また、学年の協力のもと教室の施錠や自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。⑨⑩		
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。⑤⑨⑩		
	ケータイ・ネットの安全利用や薬物乱用防止教育の充実に努める。	ケータイ・ネット安全利用を呼びかける。薬物乱用防止講習会(1年)を実施する。また、集会時においても危険性を訴えていく。⑥⑨		
進路指導	各学年と連携し、キャリア教育の充実に努める。	生徒の進路希望動向を的確に把握する。③④		
		各学年で計画的に進路講演会を実施する。③④		
		企業見学、大学見学会の実施や、オープンキャンパスへの積極的参加を促すことによって、できるだけ早期に進学等への目的意識を高める。①③④		
		紫西プレカレッジを実施し、様々な学問への興味を喚起させる。①③④		
		生徒が大学等の情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。③④		
		進路通信や進路の手引きを発行して、生徒や保護者への進路情報の効果的な発信に努める。③④⑭⑰		
		各学年に適切な進路情報を提供する。③④		
		文書や情報を共有化し、業務の流れを明確にする。③④		
		校内研修会の実施や外部研修会への参加等を通して、各自が現在進行中の大学入試改革についての理解を深め、学校全体としての取り組みにつなげる。②③④		
		医学部進学支援を通して、医者という仕事への関心を高める。③④		
	学習指導部と連携し、確かな学力	国公立大合格100名以上、難関国公立大学合格10名以上、難関私大合格15		

に基づいた進路実現を支援する。	名以上を目指す進路指導の体制を整える。 ①②③④	
	外部模試を計画的に実施する。 ③④	
	模試の結果動向を把握し、適切な進路選択に結び付ける。 ③④	
	進路相談を実施し、学年の枠を超えて生徒に適切な進路情報を提供し、個々の進路実現を支援する。 ③④	
教員の進路指導力を高める。	進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、情報の収集と指導力の向上を図り、他教員に還元する。 ②③④	
	卒業学年による進路報告会を開催し、3年間を見据えた進路指導に生かす。 ②③④	

No. 7

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
学習指導	課題を調整する。	学年用ホワイトボードを活用し、平常課外、課題の内容、小テストの回数を視覚化し課題の調整を図る。各教科間の垣根を外し、生徒の実態に応じた課外の設定、課題の精選を促す。 ③④		
	部活動等との両立を支援する。	部活動入部者に平等にも課外の機会を与え、成績不振に陥らないように、顧問と連絡を取りながら、適宜、学習相談や補習を行う。 ③④⑫		
	生徒の学力向上を支援する。	定期テストの結果、模試結果、毎月の自学自習時間調査（平日は学年+2時間以上が目標）のデータを有効に活用し、各学年・教科の数値目標を設定する。また、長期休業前に学年毎に「学習アドバイス」を編集・配付する。 ③④		
	教員の授業力を高める。	6～11月にかけて、各教科で校内授業公開を実施する。公開授業を、教科内メンバーが参観し、意見交換の機会を設け、自己の指導法を振り返る。また、授業アンケート週間をつくり、前期と後期にアンケートを実施する。 ②		
	成績下位者の支援を行う。	各教科・学年の成績不振者対策を一元化し、定期考査事前指導を組織的に実施することにより、欠点者ゼロを目指す。 ③④		
	A C（アドバンスクラス）活動の活性化を図る。	模擬試験の結果等を踏まえ、「A C 報告会」を開催し、独自の目標及び活動内容を確認・実践する。更に、A C 活動を全生徒に開き、学年全体の学力向上に寄与する。また、新任者用にA C 説明会を開き、A C についての理解を深める。 ①③④		
	土曜特別講座及び平常課外・長期休業中の課外を組織的に行い、生徒の学習時間確保に努める。長期休業中の課外はその内容及び日数について継続して検討を加える。	土曜特別講座を実施する（年間10回以上）。 平常課外を実施する。 1年（6月から英数国を週1回ずつ実施） 2年（5月から英数国を、10月から理社を加えて週1回ずつ実施） 3年（4月から全科目を実施） 夏季休業中に特別講座を実施する。 1・2年（英数国9日間）、3年（英数国7日間、理社10日間） 春季休業中に特別講座を実施する 1年（英数国3日間） 2年（文系：英国+日/世/数、理系：英数+物/化/生、3日間） ③④		
特別活動	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を増やす。 ⑪⑬		
		各種委員会の活動内容を明確にし、充実した活動と活性化を目指す。 ⑪		
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、心身の充実を図る。 ⑬		

※評価基準 A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する

	学校行事を充実させる。	全生徒・職員への連絡を周知徹底し、体育祭への各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成と、より良い人間関係を構築する。 ⑪		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
		全生徒・職員への連絡を周知徹底し、クラスマッチへの各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成とより良い人間関係を構築する。 ⑪		
	部活動の充実を図る。	部員数の少ない運動部や文化部への加入率を増やし、部活動全体への加入率を90%に上げ、部活動の活性化を図る。 ⑫		
環境衛生	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	風邪やインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩		
		性教育・喫煙防止教育・薬物乱用教育を、外部講師を招聘し1年次に実施する。 ⑬		
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	個別面談を実施し、生徒の心の問題を解決する。また、スクールカウンセラーとの連携も密に取り、落ち着いた状態で学習に臨めるようにする。⑦		
		月1回のペースで、環境衛生部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩		
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬		
		年1回のクリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬		
	毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑩			
	保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧			
図書	図書館の環境を整える。	展示・装飾を充実させる。 ①④		
		配置レイアウトを工夫する。 ①⑩		
	図書館の利用率をアップする。	発展的、探究的な学習につなげられるような資料、情報を収集し提供する。 ①		
		「読書会」を実施する ④		
	図書委員会の活性化を図る。 ⑥⑪			
視聴覚関連の環境の充実	DVDソフトを充実させる。 ⑩			
図書の廃棄をおこなう。	適切な廃棄と更新をおこなう。 ⑩			
渉外	PTA諸行事への保護者の参加率を高める。	P T A総会及び支部総会への参加率を70%以上に高めるため、ホームページや館一メール等を利用して広報活動を行う。P T A活動の内容を広報紙や、面談時の学年便り等を通して啓発する。 ⑭⑯⑰		
	PTAの活動を充実させ、活動に対する保護者の意識高揚を図る。	校外外で開催される各種P T A会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集するとともに、その研修成果を活かすように努める。 ⑯⑰		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにす。	充実した学習環境を築くため、保護者・職員からの要望や意見を集約し、その実現に向けた支援を行う。 ⑯⑰		
		保護者と職員の間での情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑯⑰		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
1年	学習習慣の確立と基礎学力の育成	授業に集中して取り組ませ、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。 ③④			
		手帳を使った自己管理を指導することで、家庭学習を習慣化させ、1日3時間以上の学習時間を確保させる。 ③④⑧			
		教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④			
	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨			
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑥⑨			
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。 ⑥⑩			
		早めに登校し、始業までの時間を学習や読書をするので、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑦⑧⑩			
	進路目標の決定	HRにおける進路学習、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③			
		AC活動などを活用することによって、高い進路目標を設定し、挑戦させる。 ①③④			
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けるように促し、多くの社会問題に興味を持たせる。 ①④			
	コミュニケーション能力の育成	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。 ①⑪⑫⑬			
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。 ①⑬			
いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱				
	各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱				
	道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱				
2年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨			
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑥⑧⑨			
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整える。 ⑥⑩			
		毎朝、読書や学習に取り組ませ、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑦⑧⑩			
	学習習慣の改善と基礎学力の向上	授業に集中して取り組ませるとともに、1日4時間以上の家庭学習時間を確保させる。 ②③④			
		学習計画表を月ごとに配付・回収し、生徒一人一人の学習状況を把握し、面談等を通して、アドバイスを与える。 ③④⑧			
		教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④			
	進路目標の決定	HRや総合学習、行事（大学見学・進路講演会等）などを通して、具体的な進路を決定させる。 ①③④			
		AC活動などを活用することによって、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、高い進路目標への挑戦を促す。 ①③④			

新聞スクラップの指導を通して、様々な社会問題に目を向けさせ、思考力・表現力を育てる。
①②④

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
	コミュニケーション能力の向上	部活動や委員会活動、学校行事等に積極的に参加させ、学校の中堅としての役割を意識し、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。 ⑥⑪⑫⑬		・
		台湾修学旅行を通して、広い視野で物事を見ることを学び、地域社会において海外との架け橋になることを意識させる。 ①		
	いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑬		
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱		
		道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱		
3年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻の指導を徹底する。 ⑤⑧⑨		
		清掃を励行させ、快適な学習環境を整える。 ⑧⑩		
		清潔な身だしなみを整えさせ、メリハリのある行動をさせる。 ⑧⑨⑫		
	自学自習の確立	隙間時間の有効活用を促し、予習復習を徹底させ、55分の授業を有効に活用させる。 ②③⑫		
		手帳を使って時間管理の徹底をはかり、1日平均5時間以上の自学自習を確保する。(夏休み前に目標達成者を50名にする) ③④		
		朝学習の習慣化と自主化を実現させる。 ③⑧⑩		
		夜7時まで学校を開放し、時習館・紫西スタディールームの使用を促すことで、学習時間の固定化を図る。		
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上	部活動や学校行事を通して、最上級生としての役割と責任を自覚し行動する。生徒会や実行委員としてリーダーシップを発揮する。 ⑪⑫⑬		
		HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを知る。 ⑪⑱		
	進路目標の達成	AC活動を通して、高い目標への挑戦を続ける。 ①③④		
		課外、小論文指導を年度当初から計画的に実施し、個々の生徒に応じた進路指導を行う。 ③④		
		個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習状況を把握する。 ③④		
		教員間での情報共有に努め、志望校検討会を複数回行い、変化する大学入試に対応できる体制を作る。 ①②③④		
		教員は新しい教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べるような授業を行うよう努める。 ②③④		
いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱			
	各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱			